



Data	2021-147
監督:	ユン・ジュホ
出演:	イム・ソンミ / ペク・ソビン / オ・ガンノク / イ・スン ミョン

👁️👁️ みどころ

近時の邦画に比べて、韓国映画のレベルの高さは明らか。とりわけ、“南北分断”をテーマにしたそれは、『スチール・レイン』（20年）や『偽りの隣人』（20年）を観ても明らかだが、“脱北者”をテーマにした本作を観れば・・・？

近時大人気のTVドラマ『愛の不時着』は観ていないが、そのヒロイン役の女優が本作では「ファイター 北からの挑戦者」として登場！彼女はなぜボクサーに？

ボクシング映画の名作は多いが、その主役は男ばかり。ヒラリー・スワンクが女性ボクサー役を演じた『ミリオンダラー・ベイビー』（04年）はその例外だが、同作は人間ドラマ！命とプライドをかけたリング上の勝負も面白いが、本作は脱北者女性の生きざまがテーマ！そう考えた方が良さそうだが・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■ ■ 『愛の不時着』の女優が本作で初主演！こりゃ必見！ ■ ■

かつては『冬ソナ』こと『冬のソナタ』が韓国ドラマの代表だったが、近時は『愛の不時着』が有名。私は観たことがないが、同作で韓国製化粧品を販売する北朝鮮人のクムスン役で人気を博したのが、本作で“ファイター 北からの挑戦者”になる女性、リ・ジナ役を演ずるイム・ソンミだ。

1986年生まれの彼女は、ポン・ジュノ監督の『母なる証明』（09年）（『シネマ23』131頁）の女子高生役でデビューした女優だが、女優生活14年目の本作ではじめて主役を獲得！しかも、彼女はそんな初主演作で、2020年釜山国際映画祭で主演女優賞とNETPAC賞をW受賞したからすごい！決して美人とは思えないが、その魅力はどこに・・・？

■□■ “南北分断”が続く中、“脱北者”の生き方は？■□■

2021年12月に出版した『シネマ49』の第7章では、「これぞ韓国映画、こんなテーマを大迫力で！」として、『スチール・レイン』（20年）を、「これぞ韓国映画、こんな視点からも緊迫ドラマを！」として、『偽りの隣人 ある諜報員の告白』（20年）を収録したが、これは両者とも、“南北分断”を前提にした物語だった。しかして、「韓国では、私たちのことを脱北者と呼ぶ」の字幕から始まる本作も、“南北分断”の中で生まれている“脱北者”問題を、ユン・ジェホ監督が鋭く問題提起した作品だ。韓国では文在寅大統領の登場以降、“親北政策”がとられているが、金正恩率いる北（朝鮮民主主義人民共和国）との間で、南北統一が進む見込みは全くない。1989年に実現したベルリンの壁崩壊と東西ドイツの統一と同じ様にいかないことは明らかだ。そんな南北対立が続く中、ジナのような脱北者の生き方は？

■□■海辺の魅力に注目！館長の魅力にも注目！■□■

本作は冒頭、海辺で一人海水に触れるジナの姿が映り、ラストにも同じような海辺のシーンになる。実はそこには大きな変化があるのだが、本作の冒頭とラストのこの美しい風景は、本作の魅力をより高めている。また、『ロッキー』シリーズで、ボクシングジムのオーナーをしていた—が魅力的な存在だったのと同じように、本作でも、ボクシングジムの館長（オ・グァンノク）と若いトレーナーのテス（ペク・ソビン）のキャラが魅力的だ。

ジナも寡黙だが、館長はもちろんテスも同じように寡黙。そのため本作は、何でもワイワイガヤガヤとやたらセリフの多い近時の邦画とは大違いだから、その分スクリーンに集中することができるし、俳優たちの表情をじっくり観察することができる。それは、ひと足先にジナと夫を捨てて脱北していたジナの母親（イ・スンミョン）も同じだ。韓国映画のすばらしさを本作で再確認！

■□■女性ボクサー最後の激突は？本作のテーマは？■□■

ボクシング映画の名作は多いが、そのほとんどの主役は男性ボクサー。女性ボクサーを主人公にした映画の代表は『ミリオンダラー・ベイビー』（04年）（『シネマ8』212頁）だが、本作に見るジナのファイターぶりは？『ロッキー』シリーズも、『あしたのジョー』（11年）（『シネマ26』208頁）も、ハイライトは両雄の命とプライドをかけた激突だが、さて本作は？

その点を期待しすぎると、ひょっとして期待外れになるかもしれない。なぜなら、ユン・ジェホ監督が自ら書いた本作の脚本では、せっかく館長が準備してくれた韓国のワガママ女とのボクシング対決でもジナはノックアウト負けしてしまうし、本作のラストに向けてやっとセットされたというジナのプロデビュー戦も、刻一刻と期待が高まる中で、映画が終わってしまうからだ。しかし、『ミリオンダラー・ベイビー』が必ずしもボクシング映画とは言えなかったのと同じように、本作もボクシング映画ではなく、一人の脱北者女性の生き方をテーマにした映画だ。ラストでは、ひょっとして恋の成就・・・？そんな展開を

含めて、本作ラストのあなたの解釈は？

2021（令和3）年11月30日記